

## 要害山

### 武田氏の詰城、要害城

信虎は、躑躅が崎館を築いた翌年の永正17年(1520)、北方に位置する積翠寺丸山(要害山)に山城を築きます。居館と政庁を兼ねた館に対し、緊急時に立て籠もる詰城としての役割を担いました。主郭に至る山道に沿って、枡形虎口や堀切・土塁などの遺構を見ることができます。



御隠居曲輪から見た要害山の眺望

## 枡形虎口

### 武田氏の築城技術を代表する虎口

虎口とは曲輪の内と外、曲輪と曲輪を結ぶ出入口です。現在、西曲輪の南北の出入口部には武田氏の優れた築城技法を示す枡形虎口が整備されています。



西曲輪南枡形虎口



西曲輪南枡形虎口の石積み

豊臣政権下に改修された石積み。その下部に武田氏時代の門の礎石を見ることができます。



## 土塁・堀

### 豊臣政権下まで拡張し続ける躑躅が崎館

建設初期の躑躅が崎館は主郭のみでしたが、豊臣政権下まで郭の増設や改修を繰り返し、現在の姿となりました。郭を囲う土塁や堀も拡張され、居館から城郭への変遷をうかがうことができます。



主郭土塁(発掘調査)



主郭と西曲輪の堀

現在武田神社の参道として利用されている南側の出入口は、神社が創建されるまで土塁が続いていました。土塁の調査によって内側から一回り小さな堀・土塁と、複数回に及ぶ改修の痕跡が確認できました。

躑躅が崎館(武田氏館跡)には、主郭を中心に堀と土塁に囲まれた複数の曲輪が配置されています。



主郭：当主の住まい兼政庁(信虎が造営し、晴信(信玄)・勝頼が使用)  
 西曲輪：義信の館(義信の婚儀に合わせて新造)  
 味噌曲輪：食糧・物資の貯蔵施設(古絵図などには蔵屋敷と記載)  
 稻荷曲輪：館の鎮守を祀った施設(甲府市美咲所在の御崎神社古地)  
 御隠居曲輪：晴信(信玄)の母(大井夫人)の隠居所と伝承  
 梅翁曲輪：武田氏滅亡後に増設

### 武田氏滅亡後から甲府城築城までの躑躅が崎館

天正10年(1582)に勝頼が亡くなると、館は新たな領主となった織田氏・徳川氏・豊臣氏配下の重臣らによって再利用されました。梅翁曲輪は家康の家臣平岩親吉によって造られたとも言われますが、現在残る館跡には、豊臣氏時代の加藤光泰の改修による遺構が多いと推定されています。



梅翁曲輪の堀・土塁



天守台(非公開)



### 近現代の躑躅が崎館

大正8年(1919)、躑躅が崎館の一角に武田神社が創建されます。江戸時代には主郭に武田信玄を祀った法性大明神の石祠があり、すでに信仰されていました。また、昭和8年(1933)に主郭前に堀田古城園(割烹料亭)が開業し、「古城」(躑躅が崎館)に対する意識が後世まで続いていたことが分かります。戦前の躑躅が崎館

## 庭園

### 武田氏の武将や文化人が鑑賞したもてなし空間

神社の能舞台と芝生広場の地下に武田氏時代の庭園跡が残っています。発掘調査では、立石や池の跡、白い花崗岩と黒色の粘板岩を散りばめた州浜などが検出されています。この庭園は、土塁越しに眺める富士山を借景にしていたと思われます。



主郭の庭園(発掘調査)

## 武田の馬

### 想像より小さかった戦国期の馬

発掘調査で馬の全身骨格が発見されました。復元体高は約125cmで、現在のポニーに分類される大きさです。また、大手の南西側で武田氏滅亡後の厩跡が見つかっています。

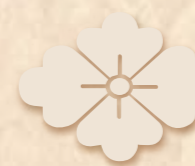


西曲輪南馬出土の馬全身骨格と大手の厩跡(発掘調査)

## 丸馬出

### 躑躅が崎館の大手を守る防御施設

現在、復元されている大手石塁は、武田氏滅亡後に築かれたものです。館の正面に位置し、外敵の侵入を防ぐことを目的に築かれました。発掘調査では石塁の下から武田氏築城技術の特徴といわれる三日月堀(三日月状の堀)が確認され、その内側には丸馬出と呼ばれる、防御施設が設けられていました。



大手石塁



大手三日月堀(発掘調査)